

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年9月27日（月）
- 2 確認箇所
増設多核種除去設備（増設ALPS）
- 3 確認項目
排気フィルタ損傷に伴う代替フィルタの設置状況

4 確認結果の概要

増設多核種除去設備（以下「増設ALPS」という。）建屋内で汚染水の浄化処理の過程で発生した炭酸塩スラリーを収納している高性能容器（以下「HIC」という。）のうち、低線量のHICスラリーを移し替える作業中に排気ラインの高性能フィルタの損傷により、HICの排気ライン出口に設置した連続ダストモニタにダスト濃度高警報（高警報値： $1.0 \times 10^{-4} \text{Bq/cm}^3$ ）が発生し、作業が中断された。

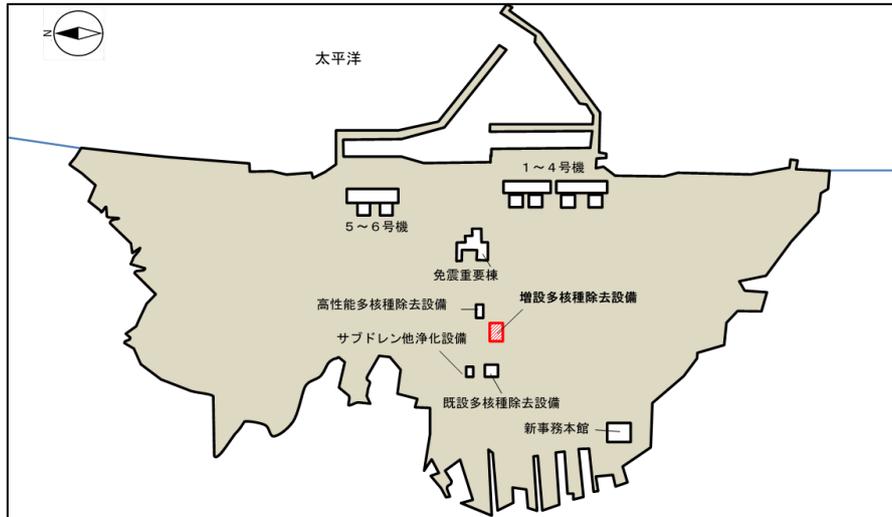
東京電力では、このことを踏まえて、同建屋内の排気ラインのフィルタの点検を行っており、その中で一部のフィルタに損傷が見られたため、暫定対策として代替フィルタを設置していることから、作業の状況を確認した。

（図1）

- ・ 損傷が確認された排水タンク、炭酸ソーダ貯槽1、共沈タンクA及び供給タンクAの計4箇所の排気フィルタ上に代替フィルタが設置されていた。

（写真1）

- ・ 建屋内ではエリア放射線モニタにて空間線量当量率の連続測定が行われていたが、指示値の上昇は見られなかった。（写真2）
- ・ 東京電力では、既設ALPS、高性能ALPS、その他の設備についても同様の点検を行い、代替フィルタの設置等必要な対応を実施していくとしている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



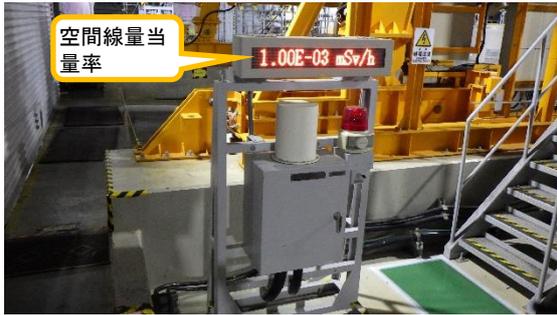
(写真1-1)
排水タンクの代替フィルタの設置状況 (西側から撮影)



(写真1-2)
共沈・供給タンクAの代替フィルタの設置状況 (北側から撮影)
※向かって左側が共沈タンク、右側が供給タンクのフィルタ



(写真1-3)
炭酸ソーダ貯槽1の代替フィルタの設置状況 (南西側から撮影)



(写真2)
エリア放射線モニタの設置状況（北側から撮影）

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。